

(6) 美術

ア 学習指導要領改訂の趣旨等及び要点

ア 改訂の趣旨

- 改訂の基本的な方向性は、次の2点である。
 - ・ 感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるよう、内容の改善を図る。
 - ・ 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習の充実を図る。

イ 改訂の要点

a 目標の改善

- 変更された点は、次の2点である。
 - ・ 感性や想像力を働かせ、造形的な視点を豊かにもち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを一層重視すること。
 - ・ 教科及び学年の目標を、育成を目指す資質・能力として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理すること。

b 内容構成の改善

- 変更された点は、次の6点である。
 - ・ 「A表現」の内容(1)と(2)の項目を発想や構想に関する資質・能力と技能に関する資質・能力の二つの観点から整理すること。
 - ・ 主体的で創造的な表現の学習を重視し、「A表現」(1)において、ア及びイの全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付けること。
 - ・ 「B鑑賞」の内容を、アの「美術作品など」に関する事項と、イの「美術の働きや美術文化」に関する事項に分けて示すこと。
 - ・ 「B鑑賞」のアに関する事項では、「A表現」の絵や彫刻などの感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現と、デザインや工芸などの目的や条件などを考えた表現との関連を図り、これら二つの視点から分け、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて「思考力、判断力、表現力等」を育成することを重視すること。
 - ・ 「B鑑賞」のイに関する事項では、従前の生活を美しく豊かにする美術の働きに関する鑑賞と、美術文化に関する鑑賞を大きく一つにまとめること。
 - ・ 感性や造形感覚などを高めていくことを一層重視し、〔共通事項〕を造形的な視点を豊かにするために必要な知識として整理すること。

c 学習内容・学習指導の改善・充実

- 新たに加えられた点は、次の2点である。
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図る。
 - ・ 障害のある生徒などについては、指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- 従前の項目に加えられた点は、次の1点である。
 - ・ [共通事項]の指導に当たって、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように配慮する内容が示されたこと。
- 従前と変わらない点は、主に次の3点である。
 - ・ 各学年の「A表現」の指導に当たって、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。
 - ・ 各学年の「A表現」の指導に当たって、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように配慮すること。
 - ・ [共通事項]に示す事項を視点を、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりするなどして、対象の見方や感じ方を広げたり、深めたりするなどの言語活動の充実を図ること。

イ 指導計画作成のポイント

- 新たに加えられた点は、次の1点である。
 - ・ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を図るようにすること。
- 従前と変わらない点は、主に次の6点である。
 - ・ 第1学年では、比較的少ない単位時間で各指導事項の内容が身に付くような題材を効果的に位置付けること。
 - ・ 第2、3学年では、一題材に時間をかけた指導も可能になるため、生徒がより個性を生かした創造活動ができるように、弾力的な学習が展開できるようにすること。
 - ・ [共通事項]を適切に位置付けて題材の設定や指導計画の作成を行うこと。
 - ・ 表現と鑑賞の指導の関連を図ること。
 - ・ 描く活動とつくる活動を通して身に付けさせる資質・能力を明確にし、様々な美術表現に親しめるように全体として調和のとれた指導計画を作成すること。
 - ・ 「B鑑賞」の授業時数を確保すること。